

連載 第22回 『試聴室探訪記』

～谷口とものり、魅惑のパノラマ写真の世界～

ESOTERIC の音の秘密基地を訪ねて

フォトグラファー 谷口 とものり・編集委員 森 芳久



今回の試聴室探訪は、高級オーディオブランド ESOTERIC の音を生み出す秘密基地でもある試聴室を訪問しました。同社では、ハイエンド・オーディオ機器はもちろん往年の名録音アナログディスクを優れた SA-CD に復刻・発売し、世界のオーディオファンから熱狂的な支持を得ていることでも知られています。それを牽引しているのが、オーディオ界では知らない人はいない大間知基彰氏です。この試聴室はその ESOTERIC の最終的な音を決める大切な場所で、当然ながら部外者立ち入り禁止です。今回は特別に大間知氏の許可を得て、日本オーディオ協会の皆様に 360° のパノラマ写真でご紹介いたします。

大間知氏に案内されて試聴室に入ると、正面には、同社のフラッグシップ機器が並び、その両側には同社が輸入販売している avandgarde のスピーカー trio classico とサブウーハー basshorn G に圧倒されます。さらにその外側にはやはり同社が取り扱っている TANNOY Kingdom Royal Black が控えています。ややデッドなその部屋で期待感と不思議な緊張感が高まります。

まずは、大間知氏お薦めの SA-CD 盤「金子三勇士 ショパン、リスト、ドビッシェー ピアノ作品集」を聴いてみました。ショパンを弾く金子三勇士の姿が目の前に浮かび上がります。これこそが、ESOTERIC サウンドなのでしょう。このディスクもまた、大間知さんのディレクションによるものです。定期的に素晴らしい SA-CD をリリースしている ESOTERIC。その音質チェックはこの部屋でスピーカーや機器をいくつも変えて、大間知氏自身の耳で厳密なチェックの結果“OK”が出されるのです。



写真-1 同社のフラッグシップ機 Grandioso シリーズ発売を記念して発売された SA-CD ESSO-10000

この試聴室の設計・施工は経験豊富な若林音響が手がけたもので、もちろんそこには大間知氏の鋭い耳もまたもう一つの測定器として働いたことでしょう。

部屋の正面には反射板と吸音材を巧みに組み合わせたライブエンド、背面には装飾を兼ねた吸音調整板が取り付けられています。床も前面の機器を並べたステージ部分は独立した設計で、床を通しての音響振動がシャットアウトされています。また布貼りの天井はさらにその上に空洞層があり、見た目以上の音響空間を持っています。

部屋の構造と概況については、下記の図面をご参照ください。

図-1 試聴室平面図

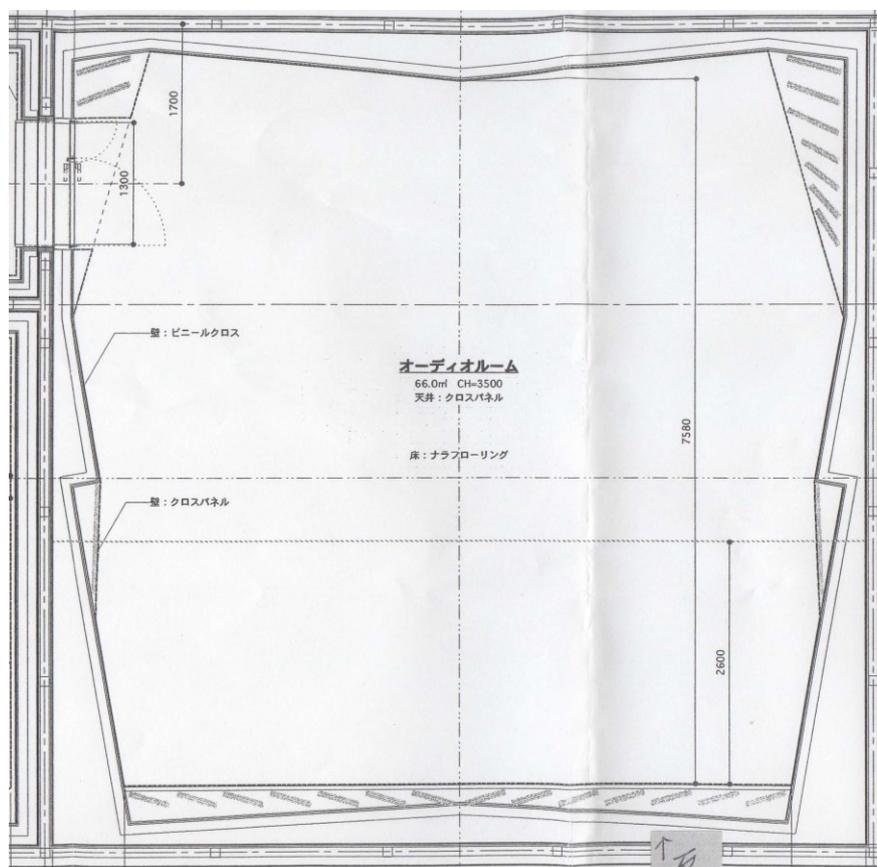
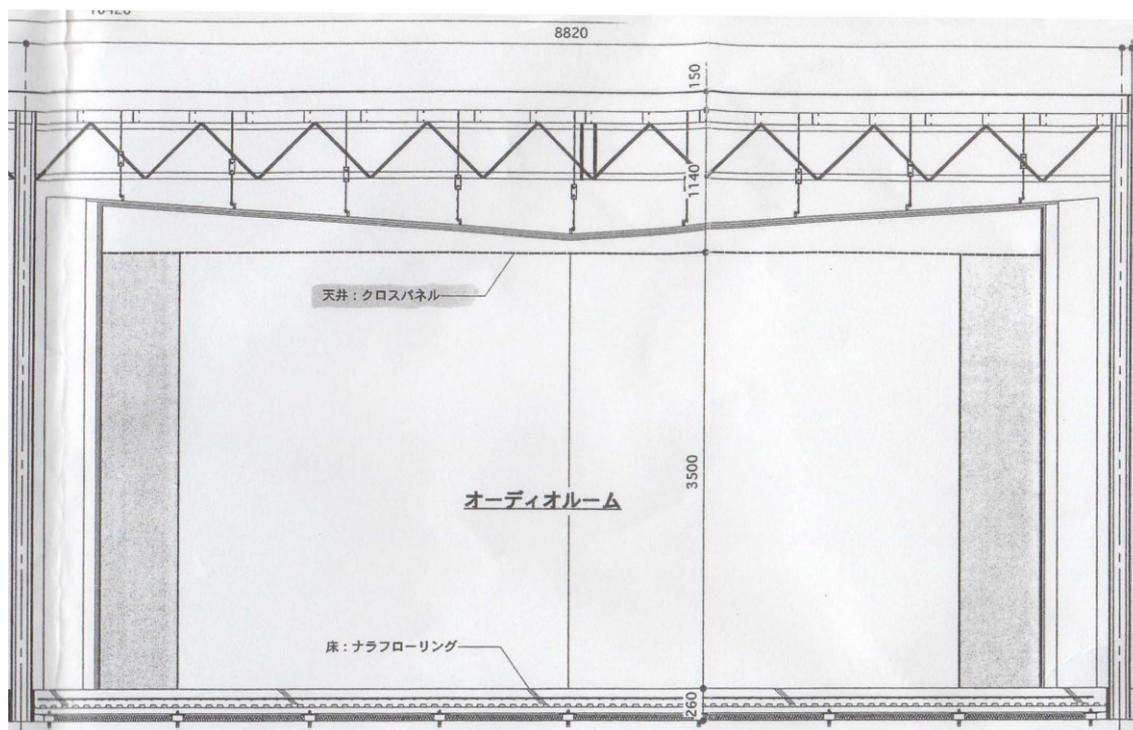


図-2 試聴室垂直方向断面図



それでは、今回も谷口氏のパノラマジックでプロの仕事場の雰囲気をも十分に楽しみてください。

パノラマ画像の操作説明

- パノラマ写真は、[ここ](#)か、はじめのページの**画像**をクリックしてご覧ください。
(ローディングに若干時間がかかる場合があります。)
- マウス操作で、画面を上下・左右 360 度、自在に回転してご覧いただけます。
- 画面下にある操作ボタンで次の操作ができます。
 - + 画面のズームイン
 - 画面のズームアウト
 - ← 画面の左移動
 - 画面の右移動
 - ↑ 画面の上方向への移動
 - ↓ 画面の下方向への移動
- 尚、カーソルを画面のオーディオ機器に当てると機種名が表示されます。